

経営比較分析表（平成30年度決算）

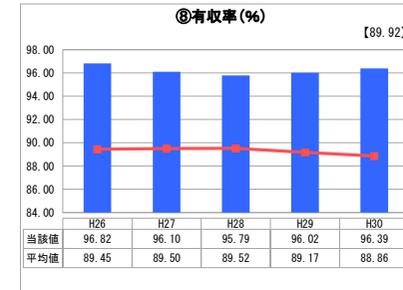
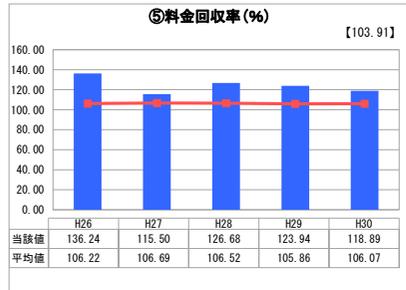
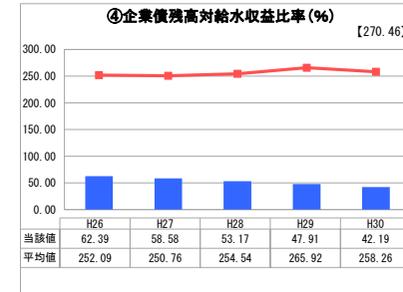
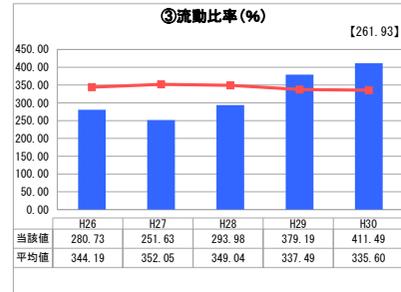
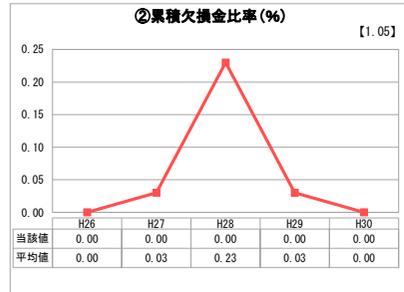
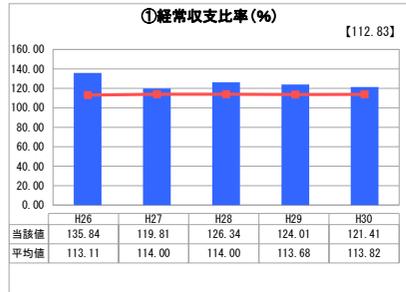
大阪府 羽曳野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	92.05	100.00	2,694	

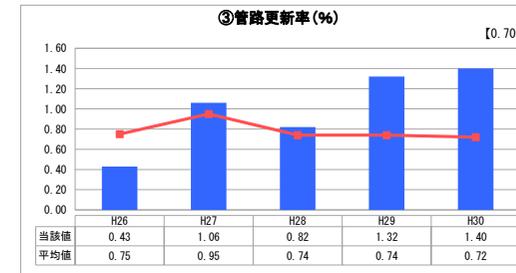
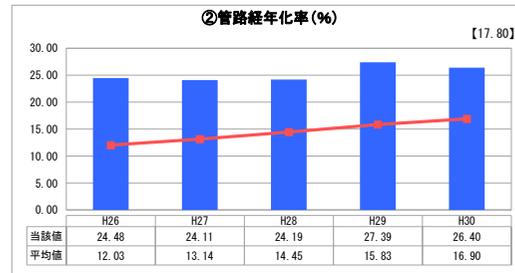
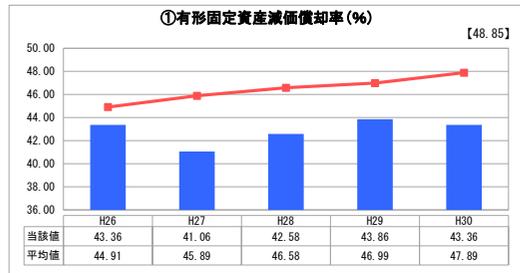
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
111,955	26.45	4,232.70
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
109,084	26.32	4,144.53

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

類似団体平均値と比較すると、前年に引き続き、①から⑧の全指標について良好な数値であることから、健全かつ効率的な経営をしていると考えられる。

ただし、①経常収支比率、⑤料金回収率、⑥給水原価については、前年と比較してやや数値が悪化している。原因は、水道施設を監視・遠隔操作するための設備を更新したことに伴い、固定資産除却処理を行ったため、資産減耗費が増加し、経常費用、給水原価が増加したことによるものである。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率が類似団体平均値を下回っていること、③管路更新率が類似団体平均値を上回っていること、また、①から③の全指標について、前年に比べ数値が好転していることから、施設更新及び管路更新について着実に実施できていると考えられる。

③管路更新率については、前年に引き続き類似団体平均値の約2倍を維持しており、②管路経年化率の改善につながっている。

全体総括

上記「1. 経営の健全性・効率性について」とおり健全かつ効率的な経営を確保するとともに、「2. 老朽化の状況について」とおり施設更新及び管路更新について着実に実施していることから、管路経年化率は依然として類似団体平均値と比べ高水準である。

このことから、平成30年度から開始した第6次水道施設整備事業(7ヶ年事業)により、施設・管路の老朽化対策及び耐震化を着実に進め、経営についても平成28年度に策定した経営戦略に基づき、引き続き健全かつ効率的な経営ができるよう努めている。